

平成28年度

福島県環境審議会 全体会 議事録

(平成28年11月25日)

## 1 日 時

平成28年11月25日(金)

午後 1時30分 開会

午後 3時05分 閉会

## 2 場 所

大町ビル 2階 大会議室

## 3 議 事

### (1) 報告事項

平成28年度版福島県環境白書について

### (2) 審議事項

福島県環境基本計画の改訂について

## 4 出席委員

石田順一郎 及川浩幸 河津賢澄 菊池克彦(代理 佐藤 掌)

高橋龍之 武田憲子 新妻和雄 橋口恭子

早川正也 細谷寿江 油井妙子 和合アヤ子

渡邊明

## 5 欠席委員

大迫政浩 崎田裕子 清水晶紀 菅井ハルヨ 鈴木秀子 高荒智子

中野和典 馬場孝允 山口信也

## 6 事務局出席職員

金子生活環境部政策監

(生活環境総室)

太田生活環境部参事兼生活環境総務課長

関根企画主幹 他

(環境共生総室)

渡辺環境共生担当次長

遠藤環境共生課長

黒澤自然保護課長

狗飼水・大気環境課主任主査

(環境保全総室)

島田環境回復推進監

鈴木環境保全担当次長  
目黒一般廃棄物課長  
橋本産業廃棄物課長  
渡辺除染対策課長  
星中間貯蔵施設等対策室長  
(危機管理総室) ※危機管理部  
小田島放射線監視室副課長

## 7 内容

(1) 開会 (司会：関谷生活環境総務課主任主査)

(2) 挨拶 金子生活環境部政策監

(3) 議事録署名人

議事に先立ち、渡邊会長から議事録署名人として武田委員と和合委員が指名された。

(4) 報告事項

事務局（関根企画主幹）から資料1-1、参考資料1及び参考資料2を基に、9月20日に行われた審議会全体会により出された、福島県環境基本計画の進行管理（平成28年度版福島県環境白書）についての意見の反映の説明を行った。

委員から特に意見・質問等はなし。

(5) 諮問事項

事務局（関根企画主幹）から資料2-1、資料2-2、資料2-3及び参考資料3について、環境基本計画の改訂について説明し、以下の質疑等があった。

### 【橋口委員】

6ページの環境創造センターについて、記載には特に意見はないが、猪苗代湖の水質浄化の取組が、地元の小学校、中学校の取組につながれば良いと考えている。

### 【石田委員】

12ページの指標について、平成23年度の数値が記載してあるが、平成23年度というのは事故当時の数値であり、アブノーマルな数値であるし、震災から5年以上が経過しているのであるから、比較対象として適切

なのか、その数値の扱い方を事務局で検討して頂ければと思う。

**【渡邊会長】**

指標について、既に目標値を達成しているものもある。その指標を今後とも使用していくのはどうなのか。今後何を目指して施策に取り組んで行くのか分からないので、どうしてこの指標が必要なのかを分かるようにして頂きたい。

18ページの指標8（原子力発電所現地確認調査回数）についても、なぜこの指標がふさわしいのか分からない。

**【早川委員】**

指標について、平成23年度の数値を記載しているのはあるべきものだと思う。事故後最悪の数値がどのくらいで、その後どれだけ進捗しているのか流れが分かって理解がしやすい。

また、環境白書のときも指摘したが、除染の基準である $0.23\mu\text{Sv}$ というものが唐突に感じる。 $1\text{mSv}$ と $0.23\mu\text{Sv}$ の違いは一般の県民は分からない。注意書きを書くなど分かりやすく記載してほしい。白書の記載も分かりづらい。

**【河津委員】**

モニタリング指標について、目標値はなく、あくまでその年度にその数だけ行ったというただ状況を見ていくモニタリング指標と、目標値を設定して推移を見ていく指標の区別がしっかりしていないので混乱を招いているのではないか。その辺を分かりやすく記載するように事務局で検討して頂きたい。

13～14ページに記載している除去土壌等の処理について、具体的な処理の定義は何か。また、仮置き場の確保について、県が確保するということは行っているのか。さらに、ため池の除染については行っているのか。

また、15ページの1行目の注意書きについて、1,000 $\text{m}^3$ 輸送は、各市町村ごとなのか、合計か分からないので、それぞれや各々など記載すべき。

**【渡辺除染対策課長】**

まず、除去土壌等の処理について、最後まで処分するという意味を含んでいる。仮置き場の確保については、市町村、国が行うのがメインであるが、確保の為の地域住民への支援や県有地の使用などもあるため、県も関与していることから、このような記載にしている。

ため池の除染については、13ページ②の生活圏の除染の一部に含まれている。

**【星中間貯蔵施設等対策室長】**

注意書きについて、御指摘あったとおり修正する。

**【石田委員】**

環境指標として、それぞれの項目からいくつか指標を出していると思うが、12ページの環境放射線モニタリングの分野で、なぜこの指標が選ばれたのか分かるようにして頂きたい。様々な分野でモニタリングを行っている中で、なぜ各地方振興局等の空間線量と水浴場なのか。

**【小田島放射線監視室副課長】**

震災当初の平成23年度から継続して測定しているのが指標1と2の空間線量と水浴場であるため、代表的な指標として扱っている。

**【太田生活環境部参事兼生活環境総務課長】**

人が生活する上でより密接なものが空間線量であるため、その指標を代表例として扱っている。また、推移を見ていく上で連続性があるものが必要であることから、水浴場も使用している。

**【渡邊会長】**

指標については、県民の関心が高いものなど様々あるだろうが、そこから代表的なものを選ぶようにして頂きたい。

指標2については、既に基準が達成しているのであるから、県民が関心の高いものに変更するなど検討してほしい。

**【武田委員】**

25ページの記載の環境に負荷をかけないライフスタイルへの転換について、マイバックの記載ばかりだが他にないのか。

**【細谷委員】**

福島県は太陽光発電（再生可能エネルギー）を推進しているが、太陽光パネルばかりで自然破壊しているように見えてしまう。自然破壊や景観の問題は大丈夫なのか。

**【太田生活環境部参事兼生活環境総務課長】**

エコバックの他にもエコチャレンジや議定書事業など行っている。まず県民の方への啓発という意味でエコバックが一番身近なことであることから代表例として記載している。

太陽光発電については、県で環境アセスメントの条例を持っているので、景観や環境の保全に配慮するようアセス手続きの中で事業者に求めている。

**【河津委員】**

26ページの食品ロスに対応する指標は考えられないか。

また、28ページの農林関係の指標について、指標設定時値から右下がりである。やはり見直しは出来ないのか。目標値に対して現状値の値が低すぎるし、他の指標と比べて増加に転じている訳でもない。この機会に見直すか、出来ないのであればもう少し詳しく増加に向けて取り組んでいくという記載が必要なのではないか。

**【太田生活環境部参事兼生活環境総務課長】**

食品ロスの指標については、福島県内の食品ロスの量というものは統計的に存在していない。それに代わるものがあるかないかも含め検討する。

農林の指標については、原発事故の影響により減少しているが、目標値を変更しないまま頑張っていきたいというのが担当部局の意向である。

**【河津委員】**

意向は分かるがやはり下がりすぎているので、現実的な目標値に変更することも一つの手ではないかと思う。検討して頂きたい。

**【太田生活環境部参事兼生活環境総務課長】**

担当部局と検討する。

**【菊池委員 代理：佐藤氏】**

科学的には効果がないとされている環境保全活動、例えば河川浄化のために EM 菌を河川へ投入すると、逆に河川の汚濁のおそれがあるなど、弊害も予想されることについて、記載するべきだと思うがどうか。

**【太田生活環境部参事兼生活環境総務課長】**

基本計画は方向性を示すものであり、具体的な施策については、個別な計画で対応していきたい。

**【高橋委員】**

27 ページの対策地域内廃棄物について、放射線量の自主基準値が様々なためリフォーム材や廃棄物のリサイクルに関する問い合わせが多い。線量の管理は市町村がやるのか、県がやるのか、事業者がやるのか分からないが、一体となってやっていけば進むのではないかと思う。基本計画に記載はしなくとも進めていってほしい。

**【渡邊会長】**

22 ページの指標 18（再生可能エネルギーの導入量）について、導入量が施設の数なのかエネルギー発電量なのか分かるように記載してほしい。

23 ページに指標 19（再生可能エネルギー関連産業の工場立地件数）と 20（再生可能エネルギー関連の産学官共同研究実施件数）についても、もう少し分かりやすい指標はないのか。

**【河津委員】**

32 ページの新しく追加したイノシシの指標について、クマやニホンジカなど他にもあるのになぜイノシシなのか御説明頂きたい。

**【黒澤自然保護課長】**

鳥獣被害総額では、約半数がイノシシとなっているので、イノシシを代表として扱っている。

**【渡邊会長】**

イノシシの年間捕獲頭数の目標値についてはどのように設定しているのか。他の生物との共生のことも配慮しているのか。

**【黒澤自然保護課長】**

目標値は部門別計画の中で策定した計画を基に決めている。

**【菊池委員 代理：佐藤氏】**

35ページの猪苗代湖の水環境保全について、ヒシだけでなくヨシも刈り取り作業を行っていると思うが、ヒシをここに記載しているということは、ヒシの方が水環境面において影響が大きいということか。

**【太田生活環境部参事兼生活環境総務課長】**

ヒシ以外にもヨシを刈り取るということも行っている。ヒシの方が水環境に影響するから記載しているというものではない。

**【菊池委員 代理：佐藤氏】**

こちらの方が水環境に影響があるというきちんとした理由があった方がよいと思う。また、ヒシの有効利用について、具体例を書いた方がいいのではないか。ヨシについては有効利用はしているのか。

**【太田生活環境部参事兼生活環境総務課長】**

具体的な有効利用については、各部門別計画で記載するようにしたい。ヨシの有効利用については昔はヨシズ等で行っていたが、今はあまり進んでいない。

**【油井委員】**

31ページの指標38（中山間地域等における地域維持活動を行う面積）について、多面的支援交付金事業が行われていると思うが、現況値と目標値に、その多面的支援交付金の数値も反映させて記載して頂きたい。

**【太田生活環境部参事兼生活環境総務課長】**

農林水産部と検討する。

**【及川委員】**

アライグマなどの外来種について県として調査を行っているのか。

**【黒澤自然保護課長】**

アライグマや近年問題となっているアメリカミンクについては、県で防除計画をたてるなどして対応を行っている。

**【菊池委員 代理：佐藤氏】**

35ページのCOD、BODの用語について一般の県民は分かるのか。

**【太田生活環境部参事兼生活環境総務課長】**

用語解説については後半にあるが、どの用語が用語解説に載っているのかは、事務局で工夫して分かりやすくしたい。

**【菊池委員 代理：佐藤氏】**

COD、BOD両方あると思うが、猪苗代湖はCODの方がいいということか。

**【渡辺環境共生担当次長】**

河川についてはBOD、湖沼と海域についてはCODというように全国的な決まりがある。

**【橋口委員】**

猪苗代湖の水質について、水質日本一からランク外になってしまった。水草回収、ヨシ刈りなど行っているが、昔はヨシ刈りの後に燃やして処分していたものがダイオキシンの関係などから出来なくなってしまった。昔の方法でやっていた駆除方法が出来なくなってしまったので、国の間に県が入ってもらえると効率よく保全が出来るのではないかと思う。

**【和合委員】**

43 ページ6行目の「景観に配慮した公共事業」とはどのようなものを指すのか。

**【黒澤自然保護課長】**

例えば、小名浜港運で景観に配慮した公園を作りたいといったときに、景観アドバイザーを派遣して、公共事業についても景観に配慮した支援を行っている。

**【和合委員】**

44 ページの環境創造センターの活用の指標67（交流棟で環境学習を行った県内小学校の数）で、県内だけでなく県外の小学生にも活用して頂くというようなことは取り込めないか。

**【太田生活環境部参事兼生活環境総務課長】**

指標としては、県外の数値までは難しいので、県内の小学生で対応したい。県外の小学生への利用促進も、正確な情報の発信という意味でも、非常に大切なことであることから、現在も各部局と連携して利用者促進を行っている。

**【高橋委員】**

避難指示区域など県民だけでなく皆無関心になっているのではないか。場所によっては避難指示解除になっているところもあるのに、固定観念からあの地域は入ってはいけないと思っている人が多くいる。

そのような中で、13 ページのような除染区域の図を載せてもよいのか。県民には正しい理解をしてもらうようにしなければいけないのではないか。

**【太田生活環境部参事兼生活環境総務課長】**

避難指示区域の正しい理解については、正確な情報発信という項目があるので、そこで対応していきたい。

今回出た意見については、事務局と会長で調整し、今後パブリックコメントを行うこととする。

**(6) その他**

特になし



(7) 閉会